バイオガス発電量 倍増

酪農のカーム角山

酪農家5戸が共同で作った酪農会社、カーム角山（かくやま、北海道江別市）は牛の排せつ物などを活用したバイオガスの発電量を倍増する。電力会社への売電収入を増やし、2019年12月期で全体の売上高を17年12月期に比べ13%増の7億円に引き上げることを目指す。循環型の酪農で収益源を広げ、さらなる経営規模の拡大に備える。

カーム角山はバイオガス発電設備を増設する（北海道江別市）

設備増設、経営基盤を強化

バイオガス発電プラントは牛のふん尿などをメタン発酵して可燃ガスにする再生エネルギー施設だ。約1億5千万円を投じて、発電設備を2基増やし2基体制にする。1時間当たりの最大出力を150キロワットから300キロワットに高める。

増設する発電設備は19年度中の稼働を目指す。他の酪農家が廃業処分として有料で処分していた牛の排せつ物や食べ残しの買い取りにも乗り出す。電力会社への売電により年間で9600万円の売り上げを見込む。

18年（2月1日時点）の道内酪農家1戸あたりの飼養頭数は130頭弱だが、カーム角山は共同化で経営規模を拡大し、4倍以上の560頭を抱える。17年度の生乳出荷量は4833トンに達し、出荷先であるサツラク農業協同組合（札幌市）全体の1割を占めた。

最新技術による省力化も進める。15年には、毎日の搾乳作業を自動化できる海外製の「搾乳ロボット」を国内最大規模の8台導入。牛の首輪からデータを読み取って個体を識別し、搾乳回数を調整するシステムや、自動で餌を寄せたりふん尿を清掃したりする機械も取り入れた。

また、比較的手のかからない生後4カ月以上の子牛の育成は外部に委託し、搾乳できる段階で引き取るようにして業務も効率化。牛舎などの施設も効率良く活用できるようにした。少人数で大規模経営に対応できる体制を整え、コスト競争力を高める。

カーム角山の川口谷仁専務は「酪農で生き残るには規模拡大が必須」と強調。18年中に飼料作物を栽培する畑や牧草地を20ヘクタール増やし、2220ヘクタールにする。今後は飼養頭数を660頭に増やし、畑や牧草地も250ヘクタールに広げたい考え。

担い手不足や乳価の低迷、国際競争など北海道酪農を取り巻く環境は厳しさを増す。バイオマス発電の増強などによって経営基盤も強め、「法人化した大規模酪農家のM&A（合併・買収）も視野に入れる」（川口谷専務）。

道と沖縄連携プロジェクト ますサツドラでフェア

北海道と沖縄県が地域活性化で連携する「さっぽろ・んこしまんちゅプロジェクト」が9月1日に始動する。食や観光の分野で協力し、セミナーの開催や企業のビジネスマッチングなどに取り組む。代表理事はサツドラホールディングスの富山浩治会長と沖縄ツーリスト（那覇市）の東良和代会長が務める。

まずは道内のサツドラの店舗で、9月18日から1カ月間「沖縄フェア」を開く。ちんすこうやオリオンビールといった沖縄ならではの商品約200種類を販売する予定だ。

フルムーン旅行客向け相談会

JR北海道は自社の販売拠点「ツインクルプラザ札幌支店」で9月18～30日、旅行相談会を開く。JR線のグリーン車が一部を除き乗り放題の「フルムーングリーンパス」を持つ、年齢の合計が88歳以上の夫婦が対象。行程や宿泊地などの相談に応じ、鉄道の利用客増につなげる。

時間は午前10時～午後5時で、原則来店希望日の4日前までの申し込みが必要。参加者はオリジナルのクリアファイルとボールペンをもらえる。相談会に参加して成約した客には、旅行後に名前入りの夫婦箸を贈る。

パソコン事務作業を自動化

北海道電力子会社のほくでん情報テクノロジー（札幌市）は、ソフトウエア型ロボットを活用してオフィスのパソコン事務作業を自動化する「RPA」サービスの提供を始める。このほど同サービスの提供元であるRPAテクノロジーズ（東京・港）や中国電力子会社のエネルギア・コミュニケーションズ（広島市）と業務提携。「EneRobo」ブランドで道内展開する。

RPAは経理や人事、受発注管理、ビッグデータ分析といった定型業務をサーバー上のロボットによって自動処理する仕組みで、省力化技術として注目が高まる。

青森リンゴ5個分入れた食パン

自家製パンを青森市内の3店舗で販売するリトルプリンセス（青森市）は食パンに青森県産リンゴを5個以上入れた「ずっしり食パン（ぜいたく）」を開発した。9月1日から市内2店舗で販売。年内に全国発売し、来年初めに台湾輸出を始めたい考えだ。カットした生リンゴをオーブンで焼き、ドライリンゴにしてパン生地に練り込んだ。弘田悠代表は「パンに空洞ができないギリギリまでリンゴを入れる試作を重ね、5～6個分が限度だと分かった」と話す。

パン生地は、青森県産の小麦粉「ゆきちから」や蓬田村のブランド卵、風間浦村の「津軽海峡の塩」など青森県産の素材を多く使った。価格は1個（1・5斤）2800円程度を予定している。

みそ・豚肉できりたんぽ鍋

みそと豚肉のきりたんぽ鍋をどうぞ――。秋田県味噌醤油工業協同組合は22日、しょうゆと比内地鶏に代わる新しい食べ方として「きりたんぽみそ鍋」を発表した。県内外の飲食店にメニュー化を促し、秋田みそや県産食材の消費拡大を狙う。きりたんぽみそ鍋の定義は、秋田みそ、県産豚肉、県産野菜、県産きのこを使用した鍋。野菜ときのこは県産を中心に使用していればよい。22日の試食会では基本レシピのほか、トウバンジャンやコチュジャンを使った「担々風」、きりたんぽにゴボウを入れて豚バラ肉で巻いた「肉巻き」など計5種類のきりたんぽみそ鍋のレシピが披露された。

百貨店売上高3%減

夏セール前倒しの影響

道内7月

北海道内の百貨店の7月の売上高は140億6600万円と前年同月比で3・2%減少した。夏のセールを6月末に前倒ししたことの反動減が主因。悪天候が続いたことも響き、軒並み前年同月を下回る結果となった。大丸札幌店は0・7%の微減ではあるが、約1年ぶりに前年同月を下回った。6月29日に夏のセールを始め、かき入れ時の2日目の土曜日が6月末となり、7月の売り上げに反映されなかった。

訪日客は「伸び率が十数%ほど鈍化している」（担当者）という。札幌丸井三越もセールの前倒しで3・1%減。7月は気温が上がらず、夏物の衣料品が低迷した。訪日客は宝飾品やブランド品などを中心に好調で、21%伸びた。

東急百貨店札幌店は6・5%減だったが買い控えを含む売上高は1・3%増だった。夏のセールの目玉として打ち出した7月27日限定の727円均一セールが好評で、同日の入店客数は前年比20%増だった。札幌以外も天候不順などで苦戦した。帯広市の藤丸は11・2%減。札幌丸井三越と共同で企画した他事が8月にずれ、外商の売り上げが半減したことも響いた。丸井今井函館店は9・3%減った。2017年度に活発だった公共投資が減少するため、個人消費と企業の設備投資が景気を下支えする。

2018年7月の道内主要百貨店売上高
（単位百万円、カッコ内は前年比増減率%、△は減）

大丸札幌店	5,641	(△0.7)
札幌丸井三越	5,460	(△3.1)
東急百貨店札幌店	1,884	(△6.5)
丸井今井函館店	616	(△9.3)
藤丸（帯広市）	465	(△11.2)

（注）日本経済新聞社の集計。東急百貨店は賃貸を除いた売上高

道内成長率0.5% 北洋銀、18年度見通し

北洋銀行は2018年度の道内経済見通しをまとめた。物価変動の影響を除いた実質ベースで0・5%の伸びを予測。17年度は4年連続だが、プラス成長は4年連続だが、伸び率は前年度（0・9%）から鈍化する。17年度に活発だった公共投資が減少するため。個人消費と企業の設備投資が景気を下支えする。

個人消費は0・7%のプラス成長を見込む。エネルギー価格の上昇というマイナス要因があるが、雇用環境は改善している。賃上げを実施した企業数も17年を上回る。

配管工 会社の枠超え育成

北ガスが初めて開いた「内管工事技能コンテスト」は技能伝承の狙いがある（札幌市）

最大の特徴は、会社の枠を超えて様々な親方のもとで若手配管工を学ばせる「青

受け入れ

北ガスの人材戦略（主なものを抜粋）

	若手育成組織「内管工事協力会」を結成
	工事会社人材募集プロジェクト「配管匠人」スタート
	配管匠人、専用ホームページ公開
	配管匠人、中高生向け職業情報誌「さくらノート」掲載開始
	「内管工事技能コンテスト」初開催

会社の人材募集プロジェクト「配管匠人（たくと）」もスタートした。共通パンフレットを作成したり求人票の書き方を指南したりして人材確保を支援する。大阪ガスが16年春に始めた同

道内外食 相次ぎ廃止

プラ製ストロー

北海道内の外食チェーンがプラスチック製ストローの使用を相次ぎやめる。居酒屋「山の猿」やカフェなどを展開するアイックス（札幌市）は8月末までに道内外の直営店75店でプラ製ストローを原則廃止にする。焼鳥店「串鳥」などを手がける札幌開発（同）も紙製に切り替える方針だ。

アイックスは年間約100万本のストローを使い、廃止で環境保護に加え、経費削減も見込む。子供や障害者ら希望者にはストローなどに示す予定だ。

札幌開発は焼鳥店「串鳥」のプラスチック製のストローを紙製のものに変える方針だ（札幌市内の店舗）

「山の猿」や「串鳥」

使い捨てのプラ製ストローは大量消費が海洋汚染などの一因と批判が強まっている。米コーヒーチェーン大手のスターバックスが2020年までに全世界で廃止の方針を示し、すかいらーくホールディングスもファミリーレストラン「ガスト」の全店で原則廃止する。

札幌開発は店舗でウーロンハイなどアルコール類を頼って提供しないためもあり、ウーロン茶などソフトドリンクにストローを差して提供する。両者の区別がつくようグラスの種類を変更。将来は原則ストローを使わず、必要な客には紙製を提供する考えだ。

2018年診療・介護報酬の同時改定
2025年に向けた医療経営戦略

受講者募集
受講無料

本セミナーは医療関連事業の経営者および従事者、関係する金融機関・コンサルタントの方が対象です。

賛:大和ハウス工業

講演① 13:00～14:25